



駒澤会だより

第15号

2010年12月20日
駒澤大学駒澤会発行

今年の活動報告

会長 井上 俊夫

本年5月に本会会長に就任致しまして約半年が経ち、皆様のご協力を頂き計画通りに事業が進んでおります事、感謝申し上げます。特に、初夏の懇親会、磯田相談役慰労会、研修会などの事業の具体的な計画から実施に当り移動手段、研修・宿泊場所等のご紹介を頂いた役員を始め、本当に大勢の方々のご協力・ご支援により、会の運営が成り立っている事を改めて感じました。厚くお礼を申し上げます。活動内容の詳細は本会報に掲載させて頂きましたので、お読みいただければと思います。

さて、就任時にもご挨拶させて頂きましたが、今期はふたつの事を重点に進めて参ります。

①発足40周年（平成23年10月）の節目としての事業を行います。具体的には、20周年以降の活動記録や写真などの資料を収集し、「駒澤会のあゆみ」として記念誌を残したいと考えております。

先日、40周年記念事業実行委員会を立ち上げ、委員は森屋副会長を委員長として、執行部・顧問・各部2名の計12名でスタートしました。現在は資料収集と記念誌を発行した場合の内容・コストについての検討を行っています。今後、仕事量の増加に伴い委員やお手伝いをお願いする事が出てくると思います。また、皆様がお持ちの資料のご提供もお願い出来ればと思います。よろしくお願い致します。

②当会の活動を大学・教育後援会・会員、他の皆様へ積極的に情報発信することにより、理解の向上を進め、会員の増加と安定的な原資の確保を図りたいと考えております。

今期の活動成果としては、7月の奨学金授与式に石井学長にご臨席頂き、ご挨拶の中で駒澤会の事をしっかりお話頂きました。これまで約1000名に奨学金を支給して来ましたが、大学から決定通知書を手渡していました。今回は、私から奨学金決定通知書を直接一人一人に手渡す事によりアピールできました。一歩ずつではありますが、着実に活動を進めて行きたいと考えております。

更に、駒澤会発足時の精神に則りスタートした奨学金支給事業を継続してゆくための諸施策を計画、実践して参ります。

今後も駒澤大学発展のため、大学・同窓会・教育後援会の方々と連携して、課題の解決に尽力して参ります。ご理解・ご協力をお願い致します。



奨学金授与式



秋の研修会 永平寺にて



山口邦夫名誉教授が特別顧問に就任

本年3月に退官され、駒澤会の趣旨をご理解いただき多額のご寄付をいただいた、山口邦夫先生（名誉教授）が特別顧問に就任されました。

駒澤会奨学金授与式

総額500万円 1人年額20万円 25名支給
目的：学業奨励
対象学生：学部2年生以上
出席者：石井学長・北小路課長・石田係長、
駒澤会から井上会長・赤堀副会長・森屋副会長

広報部長 鈴木 康元

平成22年7月22日（木）12：20から本部棟5階にて、奨学金授与式が執り行われました。

石井学長より、駒澤会とはどのような団体であるか、紹介と説明があり、「駒澤会とは、駒澤大学を卒業した子どもを持つ親の会として、昭和46年10月15日に発足されました。在校生に奨学金を支給することで、大学が社会に優れた人材を輩出し、またこれからの学生がいつの日か大学に有形無形のものを還元してくれる事を願い設立されました。今日まで多くの方々のご理解とあたたかい協力により、駒澤会の基金は成り立っています。大切な奨学金を夏休みに使ってしまうのではなく、是非有効活用して勉学に励んでいただきたい」とお話がありました。

その後、井上会長より駒澤会の活動状況や今年までの奨学金受給者が960名になったことが説明されました。

最後に井上会長より一人一人の名前が呼ばれ、奨学金決定通知書が手渡されました。



奨学金受給生の言葉



仏教学部禅学科
3年 武井 慎悟

此度は駒澤会奨学生に選んでいただき感謝しております。また同時に大変光栄に思います。

私は仏教学部に属しております。これは実家が曹洞宗の寺であることに起因するのですが、駒澤大学に入学する際に自分の中で「家が寺だから選んだ」という、なにやら受身でネガティブなイメージが付き纏いました。もちろん、幼き頃より将来は僧侶になるのだと漠然と思ってきましたので、決して悪い進路の選び方ではないのですが、なんとなくレールの上を走っているような気持ちになっていたのも事実です。

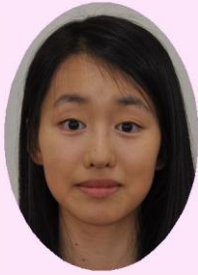
しかし、入学してみると考え方が少し変わりました。それは、大学という場所が良くも悪くも自由であるということに気付いたからでした。私は思いました。「自分の敷くレール次第で育つか腐るかが決まる。」と。そう思った時、学生として学問に邁進しようと心に決めました。1年次のところから学問に関してストイックに取り組んできた結果として奨学生に選ばれたということは、自分の中で大きな自信に繋がりました。

また、私は体育会合気道部に所属しており、今期から主将を任されております。部活を中心的に動かし、後輩を指導する立場におります。さらに、今年は合気道部創立50周年の素晴らしい節目の年であります。50周年記念の式典準備など中々経験できない貴重な体験をさせていただいております。部活では、活動のために資金が必要な場合が多々あり、それに奨学金を充てられるのは非常に助かります。

これからも、たくさんの方にチャレンジし、多くを吸収して、全身全霊で学生生活を全うしていきたいと思っております。



奨学金受給生の言葉



文学部歴史学科
4年 森谷 有美子

この度は駒澤会の奨学生として採用していただき、ありがとうございます。大変光栄に思います。

私の家は母子家庭で、母が苦しい家計の中から私のために高額な学費を毎年払ってくれていると思うと、学費納入の時期になる度に申し訳ないという気持ちでいっぱいになっていました。

さらに、大学進学前には一年浪人もさせてもらっていることを考えると、その気持ちはより大きなものになりました。アルバイトをして学費を払うこともできたかもしれませんが、やっとの思いで手に入れた大学生活だったので、アルバイトに必死になって形だけの卒業ということにはしたくありませんでした。それは母も望んでいないことだと思ったので、アルバイトは勉強に差し支えない程度にし、けれども学費以外の面で面倒はかけないように心掛けました。その後、駒澤会の奨学金のことを知り、これなら勉強にも集中できるし、もし奨学生として採用されれば学費の足しにもなると思い、勉強に励むことにしました。教員免許を取得することが大学生活での目標の一つでもあったので、授業数は教職課程を取っていない学生に比べて大変多く、授業についていくだけでも必死でしたが、決して勉強には手を抜かないよう努力しました。

この度、駒澤会の奨学生として採用していただけたことで、母も大変喜んでくれましたし、これまでの努力が報われたようで、本当にうれしく思うとともに、駒澤会の皆様には心から感謝しております。駒澤会の奨学生に選ばれたという自覚を持って、最後まで勉強には手を抜かずに良い卒業論文を書き上げるよう努力し、残り僅かになった大学生活で悔いを残さぬよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思いません。本当にありがとうございます。



経営学部市場戦略学科
2年 藤本 桃子

この度は、駒澤会奨学生に選んでいただき誠にありがとうございます。昨年度の私の勉学の取り組みをこのような形で評価して頂きましたこと、大変光栄に思うと共に喜ばしくも思っております。

私の家は自営業を営んでおり、私が高校3年生の時のリーマンショック以降の経済不況により多大な影響を受けた職種です。家計が苦しい中、それでも進学をさせてくれた家族には普段口にはしませんがいつも感謝しています。また今年度は兄弟の大学進学もあるので、今回奨学金をいただきましたこと、家族共々感謝しております。

常日頃、学費以外で私にかかる費用は全て自分のバイト代から出費しているので、バイトと勉強の両立は私の大学生活において必要不可欠な課題です。ですが現在の状況を苦に思ったことはなく、むしろ良い経験ができています。なぜなら、同時期に様々な物事を順序立てて処理する能力を養うことができ、それは社会人になってからも必要なことだと思うからです。

人それぞれ多種多様な大学生活の価値観があると思いますが、私はやはり勉学の場だと考えています。2年生になってから、以前から興味があったことに関するゼミの活動も始まりとても充実した日々を過ごしています。今回頂きました奨学金は全額授業料に充てることとなりました。

人生は勉強の日々の積み重ねです。この度の事に満足する事なく、将来の夢に向けて今後も向上心を持った大学生活を送りたいと思いません。



磯田相談役慰労会報告



総務部 山田 直重

記録的な猛暑もようやく収まった10月2日は、乗車していた「ゆりかもめ」から台場駅に降りると、心地よい海風が流れていました。

夕方18時より、ホテルグランパシフィック1階のカフェレストラン「エルベツト」で、今年5月に会長を退任されました磯田前会長の慰労会が開催されました。そこには駒澤会会員ら34名が参集致しました。

まず森屋副会長による進行のもと、井上会長が前会長へ感謝のご挨拶をされました。また駒澤大学からは清水文夫事務局長が来られ、教育後援会からは飯白会長が来られてご挨拶をされました。

磯田前会長が会長としての6年間を含めたこれまでの30年間に駒澤大学の学生の為にとご尽力された強い御心をお話されたところで参集の一同より花束と記念品が贈呈されました。

慰労会の中では、アトラクションとしてオペラ歌手の榛葉昌寛さんが歌を2曲披露されました。その後アンコールに応えられて「ヴォラーレ」を皆で歌いました。

美味しいコース料理と榛葉昌寛さんの歌で思い出に残る慰労会となりました。磯田前会長は今後も相談役として駒澤会を見守り続けて下さるとの事で、大変に有り難く、また末長くお元気でと願う所でございます。



秋の研修会報告

平成22年駒澤会秋の研修会「バスで行く永平寺・望洋楼2泊3日の旅」

厚生部部長 田邊 隆子

《 行程 》

10月16日(土)

東京(6:30)→東名高速→名神高速→北陸自動車道→永平寺(14:30)

10月17日(日)

永平寺(8:30)→兼六園→金沢日航ホテル(昼食)→東茶屋街→東尋坊→望洋楼(16:00)

10月18日(月)

望洋楼(9:30)→彦根城→名神高速→東名高速→東京(19:00)

駒澤会発足以来、初の2泊3日の「秋の研修会」は、私にとっては緊張の連続の3日間でしたが、厚生部の委員は勿論の事、ご参加頂きました多くの皆様に助けられ、何事もなく終わりましたことは本当に嬉しいことです。この場をお借りして、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

また、今回初参加の西寺様ご夫妻(京都)と高岸様ご夫妻(富山)に原稿をお願いしましたところ、快くお引き受け下さいましたので、次にご紹介させていただきます。初参加の視点から抱かれた率直な感想が優しく心に響いてきます。この原稿をお読み頂いた全国にお住まいの駒澤会の皆様が、「私も参加してみようかな」というお気持ちになられることを願っております。皆様との新たな出会いを楽しみにしております。

永平寺での秋の研修会を満喫 初めて駒澤会の皆様とご一緒に

京都府 西寺 正

本当に素晴らしい秋の永平寺での研修会でした。加えて翌日、東尋坊を臨む望洋楼の名旅館の2泊3日の旅は、初めての駒澤会参加なので不安もなく望外の喜びを感じた研修でした。

今、原稿を前に、今後、私たちのように初めての参加者が駒澤会を通じ、一步参加に進み親睦を深められるキッカケとなればとの思いで一杯です。

さて、まず永平寺。私たち京都に住む者は四季折々に北陸を訪ねますが、永平寺に一泊する機会はほとんどありません。

聞きしに勝る午前4時前の振鈴による起床の合図と洗面・坐禅・朝課など、百聞は一見の如き貴重な体験でした。特に、若い修行僧が私たちに語る、永平寺で過ごす心得や予定は、厳しい内容なのに、なぜか淡々として気持ちよく響いてきます。私同様、駒澤会の皆様も穏やかに和まれている姿に接し、初めての参加の私たちも、すっかり安心して「旧知」の間柄のように坐禅などに取り組みました。

思えば、子どもの入学を機縁に駒澤大学を身近に感じ、卒業させていただき社会人として何とか前を向いて生きている息子にしてくださった感謝の念で駒澤会に入会しましたが今回の研修会で駒澤大学を支える大谷哲夫先生、田中良昭先生のお話を親しく傍聴する機会を得たことも大きな喜びの一つでした。

本当に有り難い2泊3日の研修会でした。黙して行ずる坐禅の時も、また望洋楼の露天から沈む夕日を眺めつつ語る時間も貴重で有り難い研修でした。次回もぜひ参加したいと思います。幸い、子どもたち2人も孫と共に駒澤大学の近くに住んでいますので駒澤がさらに近くなったと喜んでいきます。

秋の研修会報告

「三つの感動」永平寺研修会に参加して

京都府 西寺 みどり

初めに、この研修会を企画・準備・運営をして頂いた駒澤会役員の皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

研修会での第一の感動は、何よりも永平寺で修行されている若いお坊様方の「ひたむきな姿」に接することが出来たことでした。手を合わせ、お辞儀をする姿は、張り詰めた空気の中で、見ている者の心を揺さぶる「美」でした。数十名の修行僧が一斉に黒の衣の左袖の中から、じゃばらに折り畳まれた正方形の敷物を手際よく取り出した時の驚き、感動。また、それを流れるような所作で仕舞われた時は、まるで天女の舞を見たような美しさでした。歩き方にも所作の一つ一つにも無駄がない上に「美」があり、私が独身であったならば、きっとこの修行僧の方に恋していたと思います。

第二の感動は、大谷前総長先生と田中現総長先生にお会い出来、お話が聴けたことです。お二人とも七十才を超えて、ますますお元気で若々しく、六十才を超えたばかりなのに「もう年だから ほどほどにしていこう。」などと考えていた私に「これからも学ぶ気持ちを忘れずに暮らさない。」と示唆して頂いたように思います。

永平寺でお会いした大谷前総長先生は、笑顔で「ようここまで来ましたね。」とおっしゃって、永平寺内のご自室を見せて下さいました。シンプルな中にも日本の伝統文化の粋の詰まったお部屋で、豊かな心持ちになりました。何より、先生の温かなお人柄にふれさせて頂いたのが、感激でした。

田中総長先生には「禅の歴史—達磨に学ぶ禅の教え」を大変分かり易くお話し頂きました。また「達磨」という表記についても、初期には「手の達磨」と書いていたのが後になって「石の達磨」と書くようになったことも教えて頂きました。先生は、禅の歴史を25年間研究して1冊の本にまとめられ、さらに25年間研究を続けて2冊目の本にまとめられたということでした。研究を続けるとは大変なことだなあと感激致しました。

第三に感動したのは、駒澤会の役員の皆様の献身的働きぶりとお参加者の皆様方の人間味あふれる魅力です。皆様が生き生きとされていたのが印象的でした。

今回の研修で学んだことは、「人との出会い」に因ってもたらされたことでした。若い修行僧の皆様からは「ひたむきさ」を、お二人の総長先生からは「温かさ」を、そして駒澤会役員の皆様からは「優しさ」を学びました。

お話に寄ると、駒澤会の研修は、総持寺でも行われるとのこと、是非、その折にも参加させて頂こうと楽しみが増えた今日この頃です。



大講堂にて記念撮影



小食（朝食）写真



前名誉会長大谷先生との集合写真



田中名誉会長の講演会

秋の研修会報告

駒澤会秋の研修会に参加して

富山県 高岸 孝子

杉木立の中に凜と佇む本山永平寺。私たちはここから東京を出発された駒澤会の方々と合流しました。いつも「駒澤会だより」を読みながら魅力的な企画にいつか参加してみたいと思っていた処、今回は永平寺の宿坊での修行の体験ができる企画とあって、すぐ主人と相談して参加を決めました。

永平寺での修行体験とあって雲水さんより廊下を歩く時、便所に行く時、入浴をする時、お食事をいただく時等日常すべて修行として心して感謝して行うよう話がありました。

廊下を歩く時の手の組み方、座っている時の手の組み方等きめ細かく教えていただき修行体験の始まりです。凡人の私は初め照れくさく気恥ずかしさを感じていましたが、しだいに心が落ち着き、心地よく感じるようになりました。

楽しみにしていた座禅。ピーンと張った空気の中で、呼吸を整え、ドキドキしながら僧が自分の前を通り過ぎるのを待つのも貴重な体験でした。

法話。自分らしく生きようとしたご自身の高校時代の体験を赤裸々にお話され、今起きている親子や地域の繋がりが薄らいだのために起こる事件を憂い、孫に小遣いを与えるばかりでは、求めればいくらでも与えられると勘違いをし、感謝することを知らない子供を育てることになる。今生きている爺婆が人と人の繋がりを感謝する心を教える最後の砦になる。このお話は我が日常を振り返り心に沁みました。

早朝の座禅は朝寝坊の私に勤まるか心配でしたが、前日からの座禅、法話、入浴と日常から離れ、落ち着いた生活をしていくと全く苦痛ではありません。暗闇の中、ビルの七～八階もの高さになると言われる法堂まで素足で登るととても厳かな気持ちです。

朝課が始まります。二百人余りの修行僧の読経が響き渡ります。荘厳な空気の中、心静かに落ちていくのを感じました。

下界に降り、金沢市の東茶屋町。昔のお茶屋の風情が偲ばれ楽しめました。金沢の横川夫妻が昼食会から参加され、更になぎやかになりました。

日本海の荒波が部屋や露天風呂から一望できる福井県三国の望洋楼。船をシルエットに水平線に沈む夕陽を露天風呂から眺めるひとは至福でした。くじやクイズなど楽しい企画があり、味よし、風呂よし、人よしの楽しい夜でした。

初秋の心地よい風の中、思い出に残る三日間を過ごす事ができました。こういう機会でないとなかなかできない体験を沢山させていただきました。全国にいらっしゃるみなさん。次回はみなさんもぜひ参加してみてください。駒澤大の卒業生をもつ親であるという共通点で結ばれた人と人の繋がりがもっと広がりますように・・・

企画してくださった厚生部の皆様に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



望洋楼前にて集合写真



彦根城にて記念撮影

教育後援会と駒澤会の懇親会報告



駒澤会副会長 赤堀 菊絵

平成22年8月28日(土)三軒茶屋銀座アスターにて、今年はことのほか厳しい酷暑の中開催しました。出席者全員で記念撮影した後、森屋副会長の司会進行で始まり、大学からは岩根部長、事務局の田村さんの出席の下、井上会長から挨拶と新体制の紹介があり、今後更に活動を進め、おたがい緊密な関係を築いていくことが大切であると述べられました。

教育後援会飯白会長からは、大学と教育後援会、駒澤会がしっかり協力し合い、支援していくことが重要であるといった力強いご挨拶をいただき、COOLBIZの「かりゆしウェア」を着ての姿はとても涼しげな印象でした。なごやかな雰囲気の中、教育後援会の皆さんの自己紹介や、出身地、趣味を紹介して戴きました。色々楽しい会話がはずみ、皆さんいい笑顔でした。

駒澤会では、監査、各部の部長・副部長の自己紹介をした後、部の活動を熱い思いで語り、アピールして会を盛り上げました。おたがいの親睦を大変深め有意義な交流ができた事に対して、感謝申し上げます。また、貴重なご意見も戴きました。

駒澤会の活動において、まだまだ皆さんにご理解いただけない所、浸透できてない部分があるとのこと指摘でした。それには何か良い突破口を見つける必要があるのではないかと思います。これからも駒澤会、一步一步「駒活」して参りますので、皆様ご支援ご協力よろしくお願い致します。



教育後援会会長 飯白 源二

駒澤会と教育後援会との懇親会が、三軒茶屋の銀座アスターにおいて8月28日に開催されました。同じ駒澤大学を支援、応援する団体として、駒澤会の役員の皆様と楽しく懇談させていただきました。駒澤大学を卒業した学生諸君のご父母の皆様が、このようにいつまでも駒澤大学の現役の学生を支援していこうとすることに、あらためて感謝申し上げたいと思います。そして、駒澤会の皆様、心の中から駒澤大学が好きで、好きで会を発展させていることに、改めて感じることができました。そして、役員の皆様の前向きさ、おらかさが39年の歴史を刻んできていると思いました。来年40周年を迎えるとお聞きし、歴史の重さ、その伝統が駒澤大学に脈を打ってきて、駒澤大学を育てているのだと改めて感謝申し上げたいと思います。

さて、21世紀に入り、日本の少子化の流れは加速し、経済の国際化、中国をはじめ東アジアの急速な発展等により、大学を取り巻く環境すら大きく変化してきております。その時代の変化に、どこの大学も取り残されないように変革を強いられています。駒澤大学は、仏教の教えと禅の心を建学の理念に、学生諸君の学びの場を提供しております。そして、その中から社会に巣立ち、多くの卒業生が活躍しております。そのことが、又、駒澤大学の伝統として重みを増していくのではないのでしょうか。教育後援会も駒澤会の皆様と共に、駒澤大学の発展のために、そして、駒澤大学学生諸君の発展の為に元気に行動していきたいと考えております。

来る年盛大に駒澤会が40周年を迎えられ、益々駒澤大学と共に大きくご発展することを祈念申し上げます。



会員紹介（総務部 宮前 享司さん）

駒澤会に入会して数年の小生に自己紹介の文章を書いて提出して下さいとのお話があり何を書いてよいのか悩みながらこの暑い夏をすごしております。

かれこれ40年も以前の話になりますが、小生が学生時代の頃の思い出を書く事にしました。自動車といえば現代はEV(電気自動車)HV(ハイブリット車)が話題になっており今後の中心的な需要形態の自動車になっていくと思われます。40年前にこんな自動車が出来ればと考えていた事が、実際に実用化されている今日です。小生も大学時代には「自動車部」なるクラブに所属し朝から晩まで勉学もそっちのけで車と格闘して真っ黒に為っておりました。当時はガソリンエンジン・ジーゼルエンジンが主流でしたが、我が大学のある研究室では革新的な水素を燃料としたエンジンを開発・試作し国産車に積み込んでキャンパス内を試走しておりました。

今になってみると環境問題を含め少ない資源の最大限の利用を考えて実行していた方達がいた事に今更ながら驚いています。小生の様にガソリンエンジンのマニュアル車の整備に日々を費やしていた者もいた時代でした。クラッチ板の交換の為ミッション部分を抱いて修理していました。

「自動車部」では

- ①車の整備を習得し「全国学生連盟整備大会」に参加する
- ②交通法規に則り正しい模範になる様な運転で「全国学生連盟ラリー大会」に参加する
- ③運転技術の向上を計り模範になれるよう日々研鑽し「全国学生連盟フィギア大会」に参加するを大きな目的にして日々練習しておりました。パワーステアリングの未だ少ない時代でしたからステアリングを回すのには体力が大変重要で体育系のクラブと同様の肉体の強化の為の運動をしていました。

現役時代の「全国学生連盟整備大会」では日常の努力が報われ全国大会優勝をする事が出来ました。優勝商品にはトヨタクラウンのコンバーチブル車を頂き大変喜びましたが書類が整っていない為ナンバープレートを取る事が出来ず(車検)仮ナンバーを申請しては色々な行事にこの車で参加し自慢をして回りました。

全国ラリー大会でも上位の成績を残す事ができました。またフィギア大会は全関東大会に参加し良い成績で全国大会に進めました。最高の毎日を皆と過ごしていました。

この時期は社会的影響で各大学では学校封鎖などが行われノンポリであった小生たちはクラブ活動に勤しんでおりました。その関係で通年より時期を早めて遠征旅行を実施しました。1泊4日で路面状況調査を目的にしたドライブ旅行です。目的地は京都(往復)。スポンサーを募り、路面状況調査報告を行事終了後提出する事を約束して、ガソリン券等を提供して頂き少しでも経費を少なくして行事を成功させるべく努力しました。往路は順調に進んだのですが、復路で大変な大事故に見舞われてしまいました。

早朝3時40分富士市警交交通隊前交差点で、信号待ちの為停車中の我が部車3台が、後続から来た大型12トントラックに追突され、1名死亡8人重軽傷という大惨事でした。安全運転を心掛け実行していた我々が何故?同期の友が亡くなり大きな痛手を受けましたが、相手方の一方的な過失の為自動車クラブは存続する事が出来ました。交通事故の悲惨さは被害者はもとより加害者も大変苦しい人生を送る事になります。また周囲の関係者も大きな心の傷を持つ事になります。4年間の大学生活がこの様な大きな傷を残して終わらなければならなかったのは小生の努力が至らなかった結果なのでしょう。

現代では車の使用が欠かせない毎日になっています。車による大小の事故も多々発生しており、絶対にしてはならない飲酒運転による事故もまだまだあります。

長々書き連ねましたが、学生時代を好きな車と格闘し、好きな車に大好きな親友を奪われてしまった。

年寄り暑い真夏に思い出した昔話でした。「交通事故を皆無にする為の皆様の努力」を宜しくお願い致します。



写真中央が宮前さん ←

会員紹介（厚生部 木村 朋子さん）

初めまして、駒澤会・厚生部で副部長をしております木村朋子です。

私は今子育て真っ最中です。と申しますのは、区の「子育て支援講座」を受講した際、実習先の館長さんにお声をかけていただき、学童保育のお手伝いをさせていただいております。自分自身が子育て中は、児童館等はあまり利用したことが無かったのですが、子育て支援講座を受けて、そのお手伝いをする事になり、年齢に応じた個別の遊び、集団遊びの必要性が大事と思うようになりました。子ども同士の刺激の仕合ということの大切さを痛感している次第です。何年かぶりの小さな子ども達を前に、ワクワクしたり、考えさせられたり、思い出したり…、楽しい時間を送っています。子ども一人一人の個性を大切に、成長過程のお手伝いを大事にしたいと思っています。

そして駒澤会では、会員の皆様の相互親睦を計るべく、企画のお手伝いをさせていただきたいと思っています。お手伝いをさせていただきます過程で、皆様から教えていただくことも多々ございます。まだまだ未熟者ですが、ご指導ご鞭撻よろしくお願ひいたします。

会員の皆様には、駒澤会の維持に今後ともご協力いただきたいと思います。願っております。



学童保育の子ども作品
「実りの秋」

会員紹介（広報部 荒井 喜久子さん）

駒澤会広報部副部長となり一年半になりました。駒澤大学教育後援会の文化部部长を終え駒澤会の維持会員となり、広報部へ所属しました。駒澤会では、いろいろな方との交流があり友人になりました。

また新年賀詞交歓会では、箱根駅伝の応援に行ったことや各部の活躍の話にも花が咲き、旧交を深めています。地方の維持会員の方とも仲良くなりました。また、娘と一緒に駒澤大学の活躍と発展を願っています。

日常の私の生活は地域のシニア合唱団の世話役をし、年に一度の発表会では、合唱の指揮者として頑張っています。また今年から手話ダンスをはじめ、ボランティア活動にも参加しようと思っています。

駒澤会がますます会員が増え大学を守り、伝統を誇れるように、広報部として頑張って維持会員の皆様に駒澤会の活躍と役割を知って頂けるように、”駒澤会だより”を充実させてまいります。



センターの指揮者が
荒井さん →



各部入部のお誘い

維持会員の皆様へ

駒澤会では、維持会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、**近郊の方又は遠方でも2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。**皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：田村までご一報ください。

TEL：03-3418-9189 FAX：03-3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事や企画の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所など考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	7月～11月までの利金	備考
日興コーディアル証券	76,000円	105回放送債
三菱UFJモルガンスタンレー証券	422,065円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	121,578円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	52,006円	定期・普通預金利息
三菱東京UFJ銀行	2,778円	定期預金利息
合計	674,427円	

基金管理委員長 赤堀 菊絵

